

地域づくり活動における女性主導型の特性と有効性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 公開日: 2020-04-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 切山, 直子 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2011352

地域づくり活動における女性主導型の特性と有効性
THE CHARACTERISTICS AND EFFECTIVENESS
INITIATED BY THE WOMEN IN COMMUNITY DEVELOPMENT

建築計画分野 切山 直子
Architectural Planning Naoko KIRIYAMA

日本の人口は減少局面に入っており、今後の企業や経済・地域の発展のためには女性の活躍が期待されている。本研究では女性が主体となって取り組む活動を対象とし、その着眼点や活動への取り組み方、地域との関わり方といった活動の実態と特性を把握することで、活動が地域や家庭、家族に対して与える効果を明らかにすることを目的とする。女性活動には取り組みにおける工夫を施しながら女性が活動に取り組みやすく、また地域とつながり、そして支えていくことのできる役割を担っている。

Japan's population has entered into a decreasing phase. Heading towards the further development of the companies, economies and local communities, women are expected to be active as the new worker in the society. In this research, focusing on the activities initiated by the women, it grasps the facts and characteristics of women's viewpoints, approaches and relations. It is aimed to be clarify the effectiveness for local community and their home. The activities play an important roles of connection to the local community and supporting them because of the elaborating on a plan in their activities.

1. はじめに
1-1. 研究の背景と目的

日本の人口は減少局面に入っており、さらに団塊世代のリタイヤ、少子化などの影響もあり必然的に労働人口の減少が予想されている。経済や地域での発展や労働力確保に向けて2016年4月に女性活躍推進法が施行されるなど、女性の力が必要とされている一方で女性の活躍推進が経済成長につながるとの説明が強調され過ぎ、そのための制度づくりばかりを急ぐ傾向になっていることが懸念される。国立社会保障・人口問題研究所の調査¹⁾による若い女性の専業主婦志向が減少しているものの依然としてその割合は高いといったことから、女性が働きやすい社会づくりを進めることは重要だが、同時に、家族・家庭と女性自身の関係性を今一度見つめ直し、女性が社会で活躍するということとは一体どういうことなのか考え直す必要が出てきている。女性には家事や育児を通して地域で育んだ力があり、こまやかな気配りや近隣との付き合いで培った力が「地域の目」になっているケースも多く、これらの役割や視点を活かした活動は今後の地域社会における手本とする

ことができる。そこで、本研究では女性が主体となって取り組む活動を対象とし、活動における着眼点や取り組み方、地域との関係性といった活動の実態・特性を把握し、活動が地域や家庭・家族に対して与える効果を明らかにした上で、女性が主体となって取り組む地域活動の有効性を述べることを目的とする。

1-2. 対象の選定と調査方法

本研究で扱う言葉の定義を(表1)に示す。対象は全国で取り組まれている女性主体の活動369事例に対し、取り組みの傾向把握のための文献調査を行い、事例を分類した上で、各分類から選定された8事例に対し活動への取り組み方や家庭との関係性について主体者及びコアメンバーへのヒアリング調査を行った。(表2)

2. 女性活動の実態と傾向

2-1. 活動内容の分類

活動内容の分類は(表3)の9通りに分けることができる。[企画][運営][販売][指導]の活動内容

表1 言葉の定義

女性活動	女性が主体となって取り組んでいる地域活動のこと
主体者	女性活動のきっかけとなる人・団体の代表者
コアメンバー	女性活動フループにおける、主体者とともに運営などに取り組む活動の中心メンバー
活動メンバー	不定期的に活動に参加するメンバーのこと

表2 対象事例基本情報

グループ情報							主体者属性					活動展開							
事例	設立	場所	団体属性	人数	男性	全体	氏名	年齢	職業	結婚	子供	ジャンル		メンバー関係性	着眼点	対象	成り立ち	拠点	収入
MG	2007	京都市左京区	NPO	10	1	-	My	47	主婦	既婚	○	まちづくり	イベント	幼稚園PTA活動	地域活動	地域	④	○	◎
ZS	2015	大阪市淀川区	NPO	9	2	-	Fc	31	主婦	既婚	○	親子	交流	知人	子育て経験	親子	③	◎	x
SM	2017	川崎市幸区	NPO	10	3	30	Kt	38	主婦	既婚	○	親子	交流	企業ママつながり	子育て経験	親子	③	x	△
KS	1994	大阪市中央区	NPO	10	5	20	Ny	77	高齢者	既婚	◎	まちづくり	居場所	ボランティア	介護経験	地域	②	○	△
VF	2015	川崎市高津区	市民団体	12	2	-	Nf	35	主婦	既婚	○	まちづくり	イベント	企業ママセミナー	楽しみ	親子	③	△	○
TM	2016	東京都豊島区	市民団体	7	1	30	Kr	28	会社員	未婚	-	趣味・防災	ものづくり	大学・職場知人	地域での発見	親子	②	△	○
IS	2006	姫路市家島町	NPO	8	0	8	Kk	65	主婦	既婚	◎	まちづくり	観光地	地域主婦	地域での発見	地域	③	○	x
BL	2011	さいたま市南区	合同会社	4	0	50	Ks	43	高齢者	既婚	○	高齢者	生きがい	元職場同僚	地域での発見	高齢者	③	◎	◎

より接客での活動が多い。また、各取り組みにおける活動内容の分布は（表4・図1）ようになり、調理を含む食品関係での取り組みが多いほか、子育てや高齢者への企画・支援といった活動が多い。

2-2. 活動の傾向

取り組みを①1次産業②地域活性③子供④高齢者⑤趣味⑥防災⑦復興支援⑧その他の8種類に分類し、活動の取り組みにおける傾向をみる。（表4）

（1）活動開始時期：女性活動を開始時期別みると、（図2）のようになる。対象事例のうち最も古いもので1957年の1次産業における食生活改善のための活動や漁協の女性部によって発足された活動である。これ以降主に1次産業を中心として女性活動が展開されるが、徐々にそれ以外の分野での活動が増え始めており、最近20年における活動ジャンルの割合は（図3）の通りである。〔1次産業〕が減少している一方〔地域活性〕〔子供〕をはじめとする様々な分野における活動が取り組まれている。

表3 活動内容一覧

企画	運営	製造	販売	支援	指導	活動	広報	産業
子育てイベント、おもてなし、親子対象のイベント、音楽でのPR、伝統文化、子供向けWS、地元農産物のPR、フリーマーケット、セミナー・勉強会、観光ツアー企画、レシビ作成、料理コンテスト開催、習い事、サークル、産後ケア、子育て塾、地域交流作り、学校教育コーディネート、学習支援教室、ゆるキャラ、地域再生プロデュース、映画製作	カフェ運営、レストラン運営、食堂、居酒屋、シェアハウス、シェアスペース、古民家レンタル、民宿運営、認可保育園、認可外保育園、託児所、放課後教室の運営、施設運営、道の駅、デイクア、体験学習受け入れ、体験宿泊、高齢者・親子の居場所	加工品製造、地酒開発、伝統料理、ハンドメイド作品、特産品の開発、商品開発、無農薬・無殺菌、美容液、伝統物、女性用作業着	直売所、食品の販売、朝市、夕市、ハンドメイド作品販売、移動販売、通販	料理提供、小学校給食提携、配達、訪問型子育て支援、子育て支援、家事代行、お使い代行、サービス、外出援助、配食サービス、高齢者向け人材育成、障害者自立支援、ママ起業支援、ひきこもり支援、悩み相談、登園バスの支援、母子生活の支援、仮設住宅への支援、農家手伝い	加工体験工房、食育活動、料理教室、出前教室、体験教室、子供向け体験活動、職業体験、WS、文化普及活動	清掃活動、植樹、保全活動、花壇の手入れ、リサイクル、洋服リフォーム、防災活動、防災ノート作り、防災グッズ製作、パトロール活動、リノベーション・DIY、演劇、コスプレ、建築保存、舞子養成	文章執筆・雑誌作成、メールマガジン・情報、地域の料理の情報発信、地図作成、地域新聞作り、ラジオ番組	農業、林業、果樹園運営、山菜採り

表4 活動内容の分布



図1 活動内容の割合

（2）グループの成り立ち：メンバーの関係性は（表5）の通り。活動開始におけるグループの成り立ちは（表6）の6タイプに分けられ、活動ジャンルごとにおけるグループの成り立ちは図4のようになる。メンバーの関係性より〔1次産業〕においては、1次産業関係者やその組合関係者から派生している活動が多いため古くから活動が展開されてきたと考えられる。一方〔まちづくり〕〔子供関係〕〔高齢者〕では〈代表型〉〈意気投合型〉の割合が高いことから活動の開始にあたって、メンバー内での共感や共通認識によってグループが結

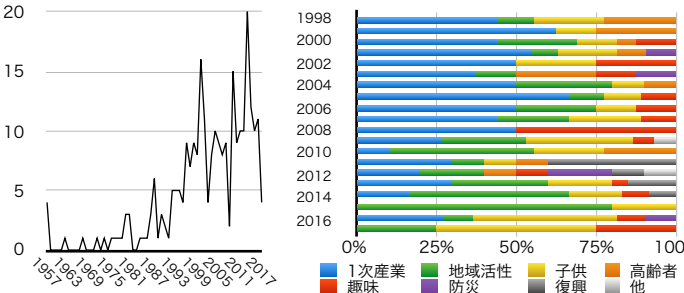


図2 活動開始時期

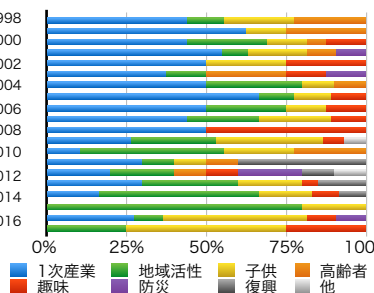


図3 開始時期-ジャンル別割合

表5 活動ジャンル

ジャンル	内訳詳細
1次産業	農業・林業・漁業・狩猟・酪農、6次産業（直売所・特産品開発）、体験系（農業体験、農家民宿）
地域活性	商店街、観光地、イベント、居場所、文化・歴史
子供	子育て支援、親子交流、教育
高齢者	デイクア、生きがい
趣味	料理、ものづくり、サークル
防災	女性を対象、主体とし防災活動に取り組んでいるもの
震災復興	震災復興を目的として活動に取り組んでいるもの
他	—

表6 メンバー関係性

生業	1次産業関係者・生活改善グループ・組合関係者
講習 つながり	イベントを通しての知り合い・地域の女性リーダー・セミナー参加者・グリーンツーリズム参加者
職業	元看護師・栄養士・調理師・保育士・幼稚園教諭、旅館女将・商店街関係者・海女さん
子供	子育て世代・専業主婦・企業ママ・育児サークル
趣味	趣味仲間・サークルメンバー・ハンドメイド作家・ボランティア
地域組織	自治会・PTA
親族	家族・兄弟
その他	U/Iターン者・仮設住宅入居者

表7 グループの成り立ち

①有志	②代表	③意気投合
もともと別目的で活動していた団体、もしくはその数名でグループを再編しているもの	活動を開始しようと決心し、行動に移すまでの過程を1人（リーダー）で行っているもの	趣味や共通の問題意識など、ある事柄をきっかけに意気投合し活動を開始するもの
④依頼	⑤個人	⑥他
外部の人から委託されて、活動を開始するもの	基本的に個人で活動に取り組んでいるもの	— ①～⑤のいずれにも属さないもの（親族など）

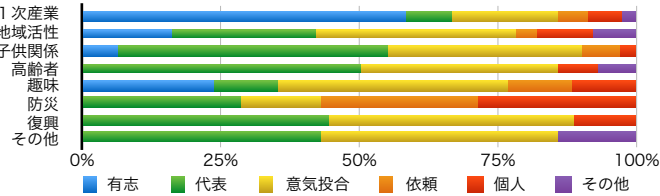


図4 グループの成り立ち

成され活動が始まっていると考えられる。【KZ】 【SM】
 【VF】 【BL】はママ友による活動への共感から始まっており、【IS】は地域の合併に危機を感じた主婦により何かできないかと結成されたグループである。

2-3. 着眼点と展開

各活動における着眼点は(図5)の6通りであり、その後は(図6)のように活動が展開されている。

(1) 生業：1次産業従事者における仕事上での問題点を解決するための活動が展開されている。問題とされているものは〈収益〉〈女性地位〉〈農村衰退〉であり、着眼点②から活動の展開を図っている。活動の展開は6次産業への展開が多く、料理や接客といった女性が得意とする分野での活動が取り組まれている。

(2) 一般経験：以前勤めていた仕事や過去の体験、受講したセミナーなどをきっかけに活動に取り組んでいるもの。着眼点は経験そのものであり、その経験の活用の仕方により活動の展開が決まっている。経験に独自の視点を挿入して活動の展開に取り組む〈改良型〉では、活動が幅広く展開されている。

(3) 特別経験：女性特有、もしくは女性が担当することの多い分野での経験がきっかけとなって活動に反映されているもの。家庭で子育てに向き合う中で感じる不安や、介護を通じて感じる不便さが活動における着眼点とされている。〈孤立感〉【ZS】では子育て中に鬱状態に陥ってしまい、その状態を打破するために子供を連れて地域と交流できる場所をコワーキングスペース(以下CWS)や0円食堂といった形で創り出している。

〈両立〉については一般企業に勤めながら仕事と育児・家事の両立が出来なかった経験から「居場所作り」「子育て支援」の2通りで展開されている。〈必要な活動〉では子育てや介護を通じて欲しいと感じた活動に、自身が主体者となり取り組んでいるもので、【KS】は姑との苦い介護経験をもとに、介護をする上で必要な役割を「高齢者外出介助の会」として生み出している。〈恩返し〉では、引っ越しや出産、子育てにおいて周囲の人々に助けられた経験から今度は自身が手を差し伸べる側となり、地域に展開していこうとするものである。

(4) 日常の発見：日常や地域での生活において発見するものが着眼点となっており、地域において懸念されている事柄や将来的に心配要素になりうるものに焦点を当てているため、その分対象が幅広く活動の展開

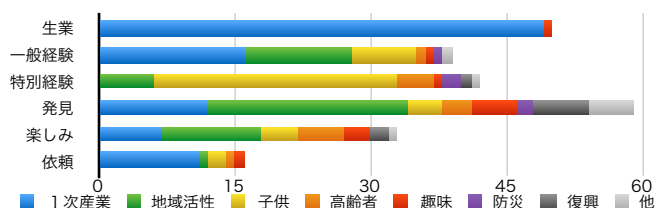


図5 ジャンル別着眼点

も多様となっていることが特徴である。【IS】では姫路市との合併を機に、島の決定権が外部の人間に渡ってしまうと懸念した主婦たちが何かできればと思い、NPO団体の設立・特産品の生産を行っていることも合わせ、〈地域の衰退〉〈伝統・文化の危機〉では地域活性に

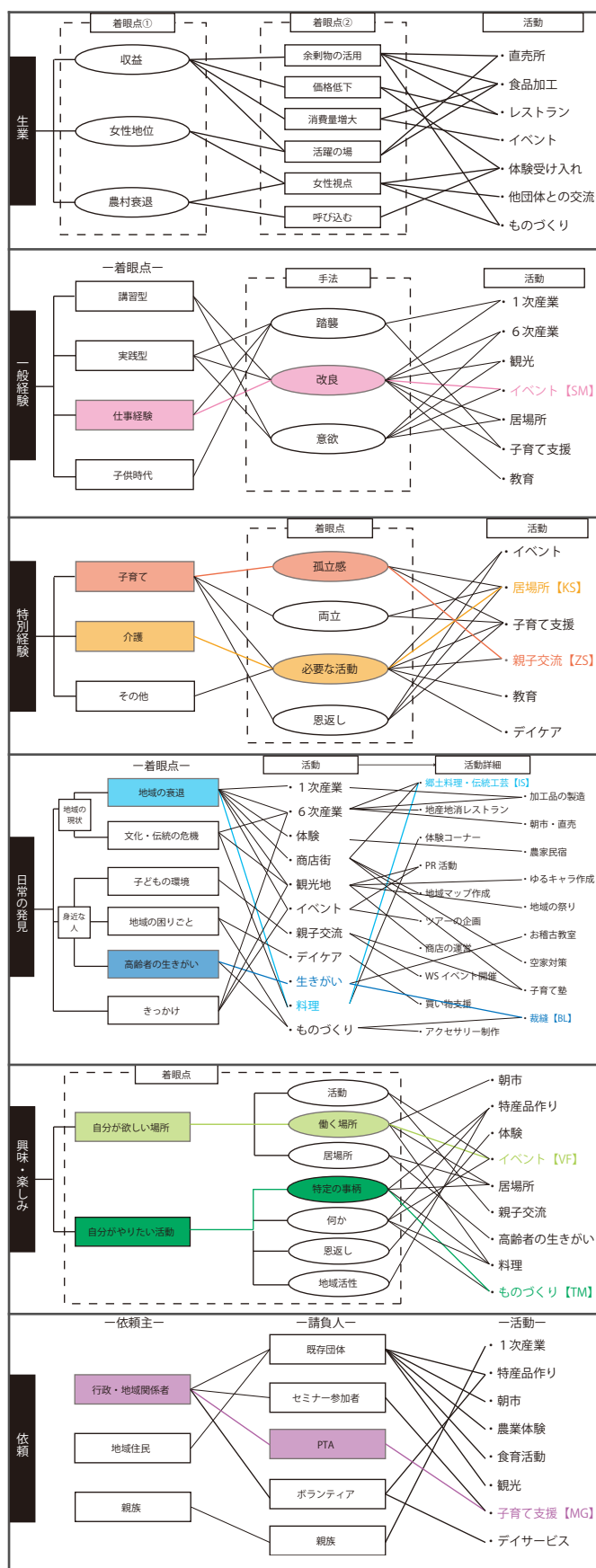


図6 活動の展開

向けた活動に取り組むことで、地域の魅力を発信し地域活性や文化の認知につながっている。〈高齢者の生きがい〉【BL】では「孫育てグッズ」と称し、高齢者目線で使いやすい子育てグッズの開発・生産を地域高齢者を中心に行うなど高齢者高齢者の技術や知恵を生かした活動に取り組んでいる。〈きっかけ〉では地域施設の閉鎖など地域に影響を与える出来事をきっかけに活動が取り組まれているが、地域に不便さをもたらす出来事の場合はその代替となる活動が展開されている。

（５）興味・楽しみ：主体者が欲しいと思っていた活動の場や、やってみたい活動であり、主体者の興味や楽しみに合わせた活動が展開されている。【VF】では地域の人とずっと近い位置で接する場所、【TM】ではものづくりによる震災への支援活動に取り組んでいる。

（６）依頼：他人からの依頼によって活動が展開されている。【MG】では幼稚園の園長からの依頼をきっかけに卒園児やその保護者と幼稚園が繋がる活動に取り組んでいたが、その取り組みをきっかけにその後幅広い活動を展開している。

2-4. 活動の傾向における特性

女性の取り組む活動は自身の経験や生活における問題点や不満に対する解決・解消のために取り組まれている活動が多く、グループの成り立ちからもわかるように活動目的については共感されるものとなっている。また活動内容が「日常生活で得られる知識や技術、経験」をもとしたものとなっているため、地域の女性が参加しやすい取り組みとなっている。

3. 女性活動における特性

3-1. 活動内容

（図7）に各活動の分布を示す。自身の技術・知識・経験を使つての活動が多くなっており、育児・介護関係での活動や、調理を含めたものづくりにおける内容が多くなっている。技術・知識・経験を使つての企画ではその内容を共有することで交流を生むイベント開催といった活動として取り組まれている。

3-2. 活動展開の分類

（1）展開多様-自主型：【MG】では思いつきで活動始めているものの、協力企業を探すなど活動の実現に向けて様々な方法を編み出し取り組んでいる。また、【ZS】ではCWSの運営目的を「自分たちだからできる働く場の提供」としているため、主体者含め利用者の意見に合わせた活動を展開している。【SM】では参加者やコアメンバーの母親目線で取り組みたい活動を展開しているため、活動開始から1年ではあるが活動の幅が広がっている。

（2）展開多様-依頼型：【KS】では「高齢者外出介助の会」「からほりさろん」の運営以外は地域住民の依頼

や義務感によって活動に取り組んでいる。活動の継続に対する意識は高くなく、需要がなくなったらやめようくらいの気持ちである。活動を継続していくことよりも、必要とされている活動にまずは取り組んでみることを重視していると考えられる。

（3）展開一様型：①内容更新：【VF】では団体による活動の取り組みとしてイベントの開催という軸は変わっていないが、イベントの内容やテーマを開催ごとに更新・変更することでイベントの中身に変化をつけており、中身における活動が多様な取り組みとなっている。②紹介による展開：【TM】では豊島区と共同で活動に取り組んでおり、イベント開催の場所やその他団体とのつながりが豊島区との関係によるものとなっており、行政主導での活動が展開されている。③固定：いしま・ババラボでは活動内容の専門性が高いために、活動の展開が固定されている。しかし活動の継続や活動を通して出会う関係者による協力のもと、活動の質は向上している。

3-3. 運営の仕組み

（1）運営における工夫：〔活動時間における工夫〕①時間の融通：活動の開始時間を厳密に決めず家庭の都合に合わせて活動場所へ来て活動に取り組めるようになっている。②活動日時の設定：主婦がコアメンバーや参加者として多い場合は参加しやすい平日の午前中に参加時間を設けることで、家庭や保育園のお迎えの時間に合わせて活動に参加できるようになっている。③負担をかけない仕組み：活動における準備は当日に行うなど、

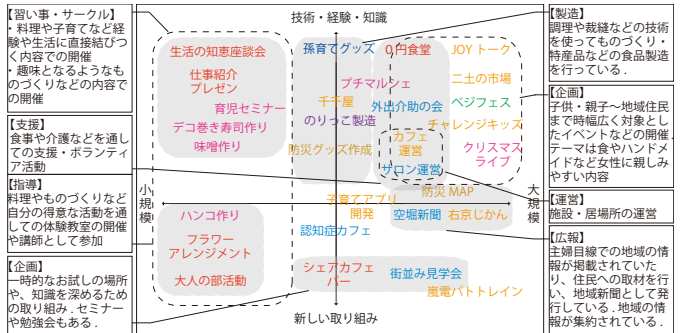


図7 各事例の活動内容

表8 活動の展開

団体	活動内容	展開	取り組み方
MG	「JOYトーク」、「みりのもりチャレンジ・キッズ」、「二土の市」、「右京じかん」、「嵐電バトトレイン」、千屋、商店街活性化活動、自然幼稚園延長保育、京都府・京都市との共同事業	多様	自主型
ZS	コワーキングスペース、仕事紹介プレゼン会、生活の知恵座談会、フラワーアレンジメント教室、大人の部活動（プラモデル・アクセサリー作りなど）、こども0円食堂、シェアカフェバー		
SM	デコ巻き寿司作り、味噌作り、手作りハンコ作り、育児セミナー、プチマルシェ、クリスマスライブ		
KS	高齢者外出介助の会、からほりさろん、空堀新聞の発行、空堀井戸端会、街並み見学会、認知症カフェ		
VF	Vege&ArtFes、川崎ママのわ	一様	内容更新型
TM	防災グッズ制作・販売、防災WS、豊島区防災マップ作成		紹介型
IS	「のりっこ」製造、コミュニティバス運営協力		固定型
BL	孫育てグッズの開発		

活動参加日を余計に増やさないようにしている。【参加形態における工夫】①子供連れでの参加：未就学児を連れて出勤・イベントに参加することや、小学生の子供であれば活動拠点に帰ってくることもある。②役割の配慮：個人の生活に合わせて取り組みやすい役割を担うことができる。【家庭事情の把握】高齢者がコアメンバーとして多い【BL】では高齢者がメンバーとして多いため、各家庭の事情や各個人の状態を把握している。【活動参加者に求める姿勢】柔軟な対応によりコアメンバーの活動への参加を考慮しているが、定期的に参加する活動メンバーにおいては各々の都合に合わせて参加してもらうようにしており、【KS】ではメンバーの代替が利くようになっている。

(2) 報酬

【給料型】2事例とも社会に新しい雇用の場を創り出しているという意識で活動に取り組んでいるため、活動に対する報酬をメンバーに還元することを重視している。給料を対価として支払うことでメンバーが活動に対して責任感を持って取り組むことができ、活動の質を上げることができている。【原価回収型】では3事例においては作品制作における材料費などが発生しているため、材料費・出展費を回収し、自身に還元される様々な対価を得ようとするもの。【無償型】ボランティアとしている。しかし、活動に対して個人が負担する金額は補填されるようになっている。(表9)

表9 各事例における報酬の実態

報酬形態	給料型		原価回収型			無償型		
	BL	MG	TM	VF	SM	IS	KS	ZS
金銭報酬	○	○	○	△	△	×	×	×
非金銭	×	×	×	○	×	×	×	×
他還元	×	×	×	×	×	○	○	×

(3) 拠点

活動拠点としては①所有型②賃貸型③一時使用型がある。活動の展開が屋内で行われる場合には活動拠点の有無が活動展開のしやすさ、活動展開の多様性に関わってくる。

(4) 男女の役割

活動における女性の強みでは、①共感力：親子向けイベントなどでは親や子供の気持ちを汲んで接客することができ、また食など身近なテーマで開催されるベジフェスでは主体者と参加者の間で共通の内容ができるため話が盛り上がりやすくなっている。②行動力：家庭の稼ぎ主としてない女性では活動へ取り組みやすくなっている。③得意分野：子育てなど子供に関する活動では女性や母親という立場で活動に参加することで、活動の雰囲気を柔らかくしたり、活動の説得力につながっている。④活動以外での効果：女性が集まることで世間話や悩みを話すことのできる環境が出来上がっている。一方で活動の弱みは、力仕事やトラブルの対処な

どにおけるものであるが家族や身近な男性に協力もらうことで解決している。

3-4. 活動の展開における特性

活動多様型ではメンバーや地域の需要は満たしているものの場当たりに活動が展開されているなど自由な取り組みとなっている。また、個人の生活に合わせた柔軟な運営による活動への参加のしやすさに加え、報酬や家庭以外の活動拠点が得られるといった運営の工夫によって、女性は楽しみながら地域での活動を展開していくことができていると考えられる。

4. 地域との関係性

4-1. 活動関係者とその関わり方

活動における関係者の関わり方とそのネットワークの広がり方を(表10)に示す。各事例における関係者を①活動協力者(活動を成り立たせるための協力者)②活動仲間(共同で取り組んでいるもの)③参加者(活動にお客さんの立場で参加するもの)に分け、(表11)に示す。(1)活動協力者：【MG】の活動のきっかけとなる幼稚園など、活動のきっかけを紹介してくれる機関もしくは広報・補助金での関係である。【SM】では設立1年ほどであるため団体の認知度が低く行政からの支援を受けることができなかったため、活動を広めていくことから始めている。展開多様型のような幅広い活動に取り組むことが、団体の地位の向上につながり、活動基盤を築くことにもつながっていると考えられる。

(2)活動仲間：住民から企業・施設まで様々な規模の団体・個人と活動を共に行っている。企業や施設などではイベントなどを通じて団体の存在を知りアプローチしてくるものや、逆にこちら側から依頼をするものもある。一方、個人の手伝いでは活動の簡単な手伝いを行うボランティアや、パフォーマーや臨床心理学者など様々な分野の人が活動に参加しており、そのきっかけはイベントの口コミやSNSでの情報、通りすがりに寄ってみたなどである。3-2における女性の作る雰囲気が活動の参加のしやすさにつながっていることや、屋外や大通りに開けた場所でイベントが開催されているなど拠点もしくは開催場所の性質によって認知が増え様々な活動仲間の獲得につながっていると考えられる。

(3)活動参加者：【IS】【BL】以外では親子を始めとする地域住人が活動に関わっている。活動への参加は団体が行う広報から口コミまで様々であるが、【ZS】が口コミにて開催時間4時間の0円食堂に140人来場するようになるなど、女性活動への親子参加が多いことから、着眼点による社会や経験で必要だと感じた活動は地域の需要に当てはまっていると考えられる。(図11)より〈自主型〉である【MG】では自立運営を目標としていることもあり、様々な関係各所と協力して活

動が展開されている。それぞれのイベントなどの取り組みが協力者・参加者と出会える場となっている。

4-2. 日常での関わり

活動への参加や関係者は知人による紹介やSNSによる関係が多い。活動を通して知り合ったメンバーとは私生活での交流もあり、活動や生活など自分の取り組みについて理解してくれている関係性であるため、話が合いやすく、普段のママ友とはできない話ができる関係性が築けている。また、【KS】【IS】では活動自体を特別なものでなく日常の一部と捉えており、メンバーのひとつの楽しみとなっている。

5. 女性活動と家庭の関係性

5-1. 活動に対する構え方

(1) 自身の活動への構え方:子育てがひと段落したタイミングで活動に取り組んでいる場合は、家庭との両立は問題ないとしている。また子育て中での活動におい

ては、まずはやってみないとわからないという考えから、活動に取り組んでいる。コアメンバーにおいては、活動内容に興味を持ったこと・趣旨に賛同したことにより活動に参加している。いずれも活動参加におけるハードルは低いとされる。

(2) 家族からの反応とその対策: 家族からの反応では大半が賛成を示しているが、家族の反応に関わらず母親という立場で参加している場合には、家庭との両立において両立のルールを設けて活動に取り組んでいる。午前中に掃除や洗濯を済ませる、夕食の下ごしらえを終わらせるといった工夫や、家事に支障をきたさない範囲での参加を心がけるといった意識を持っている。

5-2. 家庭にもたらす効果

(1) 自分への効果: 活動を通じて多くの人と繋がること、関係性を構築することができるために【様々な人脈形成】【同じ立場の理解者】【地域との接点】【視野の広がり】といった効果を得ることができる。また、家庭以外での活動場所ができたことによって【楽しみのある場】【子育て負担の軽減】につながっている。幅広く柔軟な活動を展開できる女性活動だからこそ可能である【夢の実現】といった効果もみられている。

(2) 家族への効果: 主に子供への効果である。イベントや多くの人と出会える機会・場所は子供にとって【楽しみのある場】や、多くの大人・子供に出会う機会に恵まれるため【人に慣れる】ことで誰とでもコミュニケーションを取る術を身につけている。イベントを通じて普段はできない特殊な体験ができる【多様な経験】が可能である点や、子育てや子どもといった視点がイベントの性質や運営の特徴などに反映されていることから、女性活動は子供の【成長環境】において良い影響を与えていると考えられる。

6. 結論

女性活動には、活動が経験や生活に根ざしていることや生活に合わせた柔軟な運営によって活動に無理せず楽しみながら取り組めること、場当たりの取り組みから自由に活動を展開することができることから【生活基準】【トラブル回避】【自由な展開】【楽しみ】【続けやすさ】といった特性が挙げられる。これらの特性による地域の有効性は①自身のために取り組む活動が地域に、地域のために取り組む活動が自身に対しても効果が還元されること、②自由な展開による地域への波及効果である。また、私生活においては③地域に広がる活動に取り組むことで家庭以外の活躍の場ができること④理解し合えるグループ・関係性が構築できることである。これらの有効性を持つ女性活動は、今後の地域社会を支える役割を担うと考えられる。

表 10 関係図

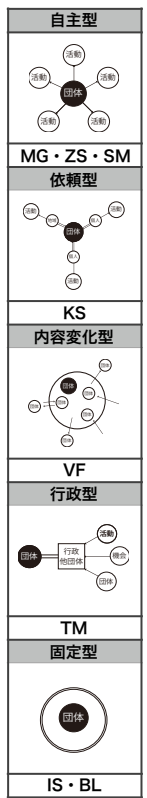


表 11 各事例別関係者一覧

関係	関係各所	事例								
		MG	ZS	SM	KS	VF	TM	IS	BL	
協力者	幼稚園・保育園 ボランティア協会	○								
	メディア 地域外行政				○					
	行政 農家	○	○	○		○	○	○		
	活動仲間		○			○				
活動仲間	商店街	○			○	○				
	企業	○		○	○				○	
	工場								○	
	飲食店			○		○				
	本屋			○						
	地域施設 商業施設 産業創造センター						○			
	防災センター							○		
	大学・研究機関	○							○	
	ボランティア	○	○		○	○				
	パフォーマー		○							
	コミュニティデザイナー								○	
	高齢者 地域男性								○	
	子ども食堂 起業ママ		○					○		
	ハンドメイド作家			○		○	○			
	参加者	地域住人	○	○		○	○	○		
親子		○	○	○		○	○			
ママ友			○							
他地域活動団体		○						○		
臨床心理士			○							

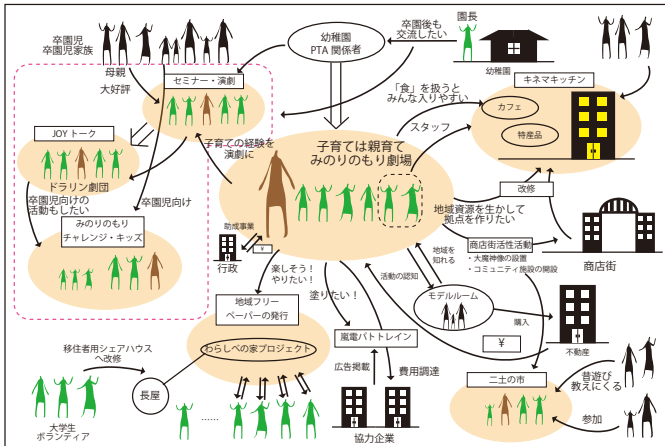


図 11 MGにおける活動の展開

参考文献: 1) 国立社会保険・人口問題研究所
http://www.ipss.go.jp/ps-katei/j/NSFJ5/NSFJ5_gaiyo.pdf